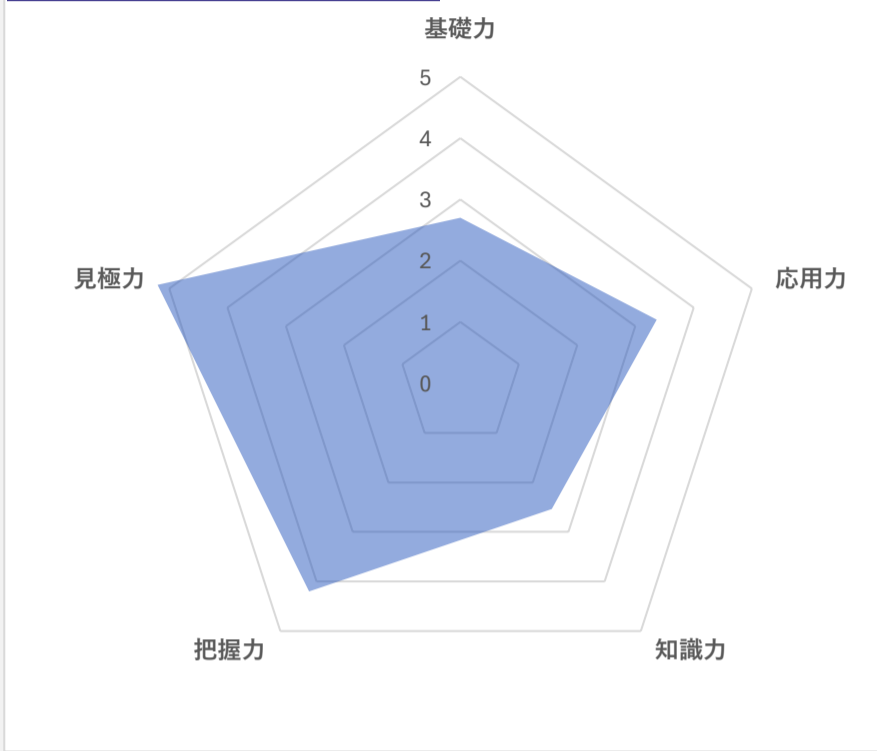


総合分析

試験区分	一般（後期）
------	--------

制限時間	45分（理科2科90分）	大問数	全3問
------	--------------	-----	-----

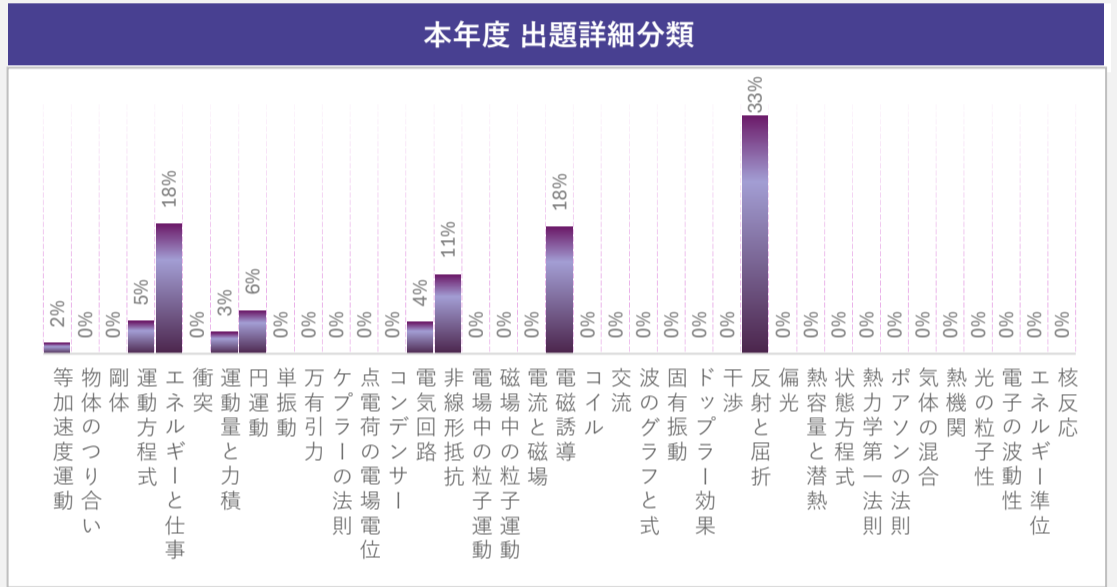
合格に要する能力（5段階）



出題分野	
力学	33%
電磁気学	33%
波動	33%
熱力学	0%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	摩擦のある斜面上昇と円筒外面による拘束
第2問	屈折率測定実験とレンズ
第3問	磁場変化と磁場領域進入による誘導起電力

本年度 解答形式
選択肢 100%



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算なし

特記事項 標準的だが見慣れない設定もあり、読み取りに時間がかかる

総合評価

難度	3.4	最難を5とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	45%
分量	80分	完答に要する時間（制限時間は45分）	多い	正答率をさほど要さない	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

入試から見る大学が求める学生像

出題分量が多いことで有名な私立の医学部のなかでもトップクラスに出題量が多い。すべての人間が制限時間に満足に解答できることはない。ゆえに、一定以上の学力があれば物理の得意不得意で差がつくことはない。苦手な単元を克服するより、得意な分野を伸ばしてきた受験生が合格しやすいだろう。悩むような問題なら捨てる、という冷静な判断力を要する。総じて、自分の強みをよく知り、得意分野で専門性を発揮する学生を求めているのだろう。